

特長

● 希少な国産青大豆

青大豆EXパウダーは国産青大豆を使用しています。青大豆はオリゴ糖含量が多いことから甘みがあり、美味しいとされています。

● 独自加工製法

青大豆を微粉碎化し最適な熱処理条件により、青臭さのないプレーンな風味で分散性が良くザラツキがなく、大豆栄養価そのままの粉末素材です。

● 機能性

大豆が本来持つ機能性に加え、青大豆独特の活性が見出されています。

● 抗アレルギー作用

青大豆摂取によりアレルギーモデル動物（マウス・モルモット）において抗アレルギー活性が確認されました。

● 脳機能低下抑制作用

青大豆摂取により老化に伴う記憶学習能の低下抑制活性が認められました。
静岡県立大学との共同研究 日本薬学会 第132年会(2012)



■ 製造方法

青大豆

微粉碎

独自
熱水処理

乾燥



■ 青大豆と黄大豆の成分組成の違い

オリゴ糖(ラフィノース、スタキオース)・サポニン含量が黄大豆に比べて多い

■ 良好な水分散性

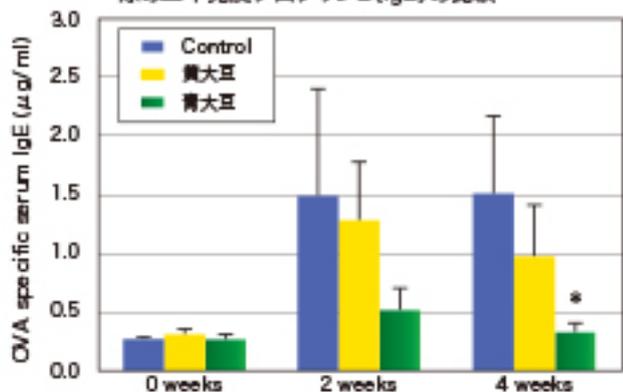
微粉碎化により、水に分散しやすくなっています

大豆本来の成分を損なうことなく熱水加工処理しています。そのため、そのままでも錠剤・顆粒にしても摂取可能です。

抗アレルギー活性

OVA感作モデルマウスによる抗アレルギー評価実験

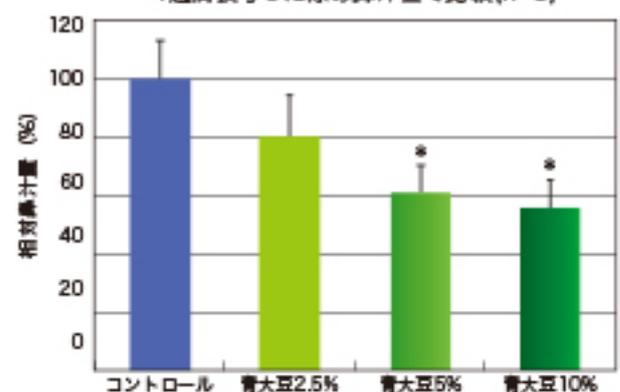
青大豆を飼料に混ぜ(5%)、4週間投与した際の血中免疫グロブリンE(IgE)の比較



青大豆は上昇する血中IgEを抑制した

TDI鼻汁モルモットモデルによる抗アレルギー評価試験

青大豆を各濃度に混ぜた飼料を4週間投与した際の鼻汁量で比較(n=8)



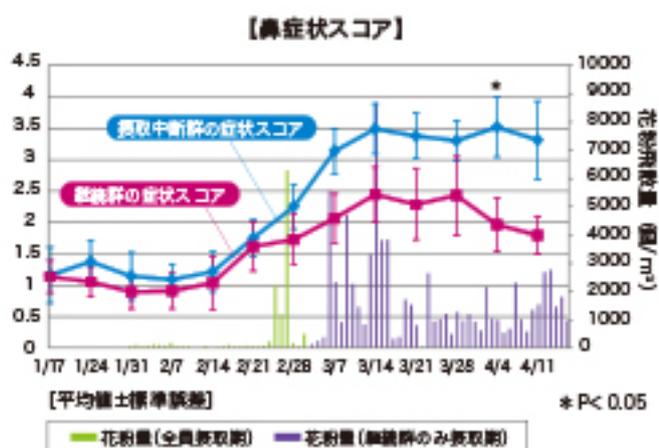
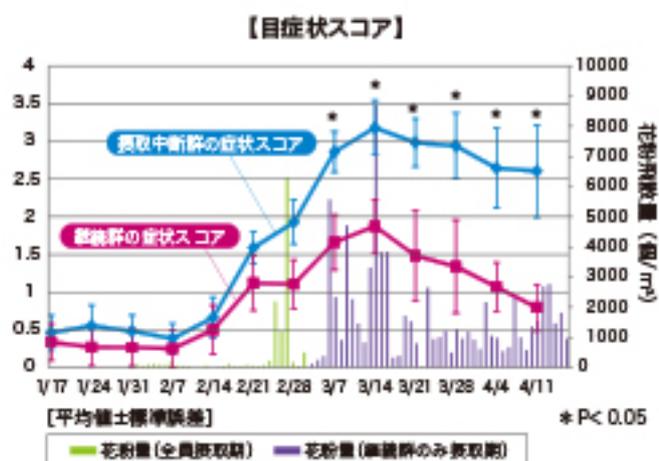
青大豆はモルモット鼻汁モデルの鼻汁量を抑制した

青大豆には抗アレルギー活性が認められた

花粉症症状抑制効果

ヒトモニター試験における青大豆EXパウダー 摂取による花粉症症状抑制効果

1日5gの青大豆EXパウダー顆粒を摂取(各群8名)
折れ線グラフ:各症状のスコアの推移
(症状スコアは高い程、症状が悪いことを示す)



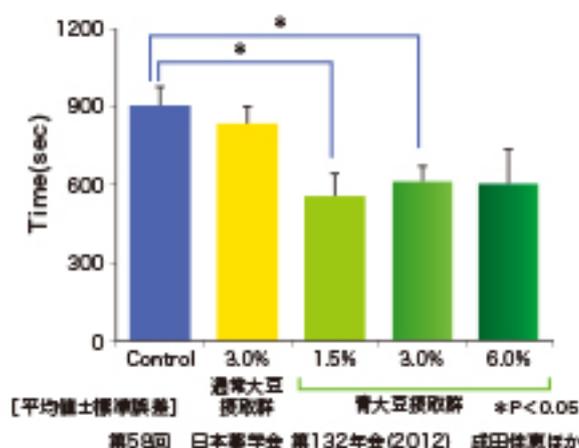
青大豆継続摂取により目症状、鼻症状ともに抑制された

第31回 日本アレルギー学会 秋季学術大会(2011)

脳機能低下抑制作用

老化促進モデルマウスによる 記憶学習能の低下抑制活性

青大豆を各濃度にて加えた飼料を摂取させたマウスが
暗所の危険性を学習するのに必要とした時間で評価



青大豆は脳機能の低下抑制活性を示した

成分分析値

項目	成分分析値(参考値)
炭水化物	30.2 g/100 g
たんぱく質	38.7 g/100 g
脂質	24.5 g/100 g
総サポニン	410 mg/100 g
総イソフラボン	417 mg/100 g
スクロース	9.6 g/100 g
ラフィノース	0.9 g/100 g
スタキオース	4.5 g/100 g

製品規格

試験項目	規格
外観	淡黄色～淡緑色の粉末
におい	わずかに大豆のにおい
味	わずかに甘みのある大豆の味
水分	10% 以下
POV(過酸化値)	20 meq/kg 以下

試験項目	規格
A V (酸価)	3 g/kg 以下
ヒ素(As ₂ O ₃ として)	2 ppm 以下
重金属(Pbとして)	20 ppm 以下
一般細菌数	3000 cfu/g 以下
大腸菌群	陰性/2 g

■一般名:青大豆加工粉末 ■原材料名:青大豆 ■入目:10 kg ■賞味期限:12ヶ月
■保存方法:光を避け、涼しい場所に保存して下さい。